

ベンガル文字

丹羽 京子

ベンガル語はインドの西ベンガル州の公用語であると同時にバングラデシュの唯一の国語です。人口は西ベンガル州が約 6800 万人、バングラデシュが約 1 億 3000 万人をあわせてほぼ 2 億人になりますが、ベンガル語を母語としない人も若干含まれますので、話者人口はこれよりやや少なくなると考えればいいでしょう。ベンガル文字はこのベンガル語を書き表すために発展してきたもので、ベンガル語の歴史はベンガル文字の歴史であるとも言えるのです。

ベンガル文字は、ブラーフミー文字の一種であるグプタ文字から分かれたもので、その意味でヒンディー語をあらわすデーヴァナーガリー文字と同根であると言えます。7,8 世紀頃から、より西方に位置するナーガリー文字などと分かれ、徐々にベンガル文字としての特徴を備えていきました。その後も緩やかに変化していったため、中世期のベンガル文字と現在のベンガル文字は完全に同じものではありません。

ベンガル語世界では綴りの問題がしばしば取り上げられます。ベンガル語の綴りの様式は伝統的にサンスクリット語の影響を受けていますが、同じ語彙を用いている場合でもベンガル語における発音は異なったものとなっており、その両者の間で揺れるためです。もちろん標準的な綴りの規則はありますが、現在では二国間にまたがって用いられていることもあって、ベンガル語としての綴りを厳密に統一することはむずかしいようです。また従来から外来語の綴りが一定しないことが指摘されてきましたが、最近では英語からの借用語が増え、これらの綴りをどうするかということも問題になっています。

ベンガル語では子音結合（子音と子音が連続するもの）の種類が多く、それらの形や発音も基本の子音（字）と異なる場合があるので注意を要します。

ベンガル語の「こんにちは」は、発音上は [nɔmoʃkar] で、「ノモシュカル」に近いものになりますが、綴りは以下のようになり、それに併せてローマ字表記も namaskar のようになされます。

নমস্কার

これを分解すると次のようになりますが、[ʃ] + [ka] の部分は子音結合になっています。

ন ম স্কা র
na ma ska r

またベンガル人にはイスラム教徒も多く、その場合はイスラム教徒共通の挨拶である「アッサラーム・アライクム」もしくはそれを省略した「サラーム」を用います。これらのベンガル文字も記しておきますが、「外来語」であるため他の綴り方も見られます。

আসসালামু আলাইকুম assalamu alaikum
সালাম salam

[参考文献]

- 町田和彦・丹羽京子 『エクスプレス・ベンガル語』、白水社、1990.
- 奈良毅 『ベンガル語会話練習帳』、大学書林、1981.
- 奈良毅 『ベンガル語基礎 1500 語』、大学書林、1986.

(町田和彦編著 『華麗なるインド系文字』 白水社 2001, pp. 174–175 より転載)